科目	心理学 (B)	単位数	2単位
担当教員	多田　美香里		
履修対象	心理科学科1年春学期・健康科学科1年春学期・子ども1年春学期・発達1年春学期		
概要と目的	心理学の基本的な知識や心理学の考え方の特徴をつかむことをめざす。		
達成目標	「知識・技能」 （1）心理学の成り立ちについて概説できる。 （2）人の心の基本的な仕組みや働きについて概説できる。 （3）心理学の学術的専門書を読むことができる。 「思考力・判断力・表現力」 （1）学術的な心理学と科学的でない心理学の違いを区別できるようになる。 「主体性・多様性・協働性」 （1）過去の研究について現在の倫理的観点から批評することができる。		
授業計画			
1	心理学とは、心理学の歴史：心理学が扱う対象、細分化された領域、心理思想、心理学の成り立ち、学派		
2	人間の行動特徴：動物と人間、生得性と獲得性、初期経験		
3	発達：発達観、言語発達、自我の形成、発達段階、加齢		
4	学習：古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習		
5	感覚：感覚の種類と範囲、感覚間統合		
6	知覚：注意、体制化、恒常性、空間と運動		
7	認知：記憶の過程、非言語的記憶、学習プログラム		
8	言語：音声、運用と理解、概念獲得		
9	思考：問題解決、推論、創造的思考		
10	動機づけ：内発的動機、社会的動機、動機の階層と獲得、原因帰属		
11	情緒：ノンバーバルコミュニケーション、情動表出、気分と感情		
12	人格：把握と形成、特性と類型、検査、知能		
13	社会：個人と集団、対人認知		
14	臨床：異常心理学、心理アセスメント、心理療法論		
15	再び、心理学とは：これまでのまとめとそれを踏まえた人の心の基本的な仕組みや働き、関連する領域について確認		
授業形態／具体的な内容	①講義／②講義		
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は指定しない			

参考書			
成績評価の基準・方法	成績評価の基準：心理学の成り立ちや心の仕組みについて理解し、概要を説明できること。 成績評価の方法：受講態度（積極性・コメントの妥当性）10点、課題（宿題、小テスト、小レポート、コメント）の達成度40点、学期末試験50点とする。		
留意点	宿題、レポート課題等については解答例を示すので、採点結果とともに参照すること。		
準備学習	各回のテーマについて教科書の該当する部分を読み、わからない用語や項目について各自で調べてノートにまとめておくこと（1時間程度）。 授業終了後マナバに掲載している課題を期限までに行い提出すること（1時間程度）。		
備考		No.	GE712004

科目	心理学概論	単位数	2単位
担当教員	山田　冨美雄		
履修対象	心理科学科1年春学期・健康科学科1年春学期		
概要と目的	こころを科学的に理解する基本的な考え方を学ぶことを目的とします。		
達成目標	心理学の学問的性格を知るために、以下の観点から概要を学びます。 「知識・技術」 （１）心理学の歴史、用語や理論、方法論についての知識を得る。 （２）心の仕組み、心理学のいろいろな領域について理解し説明できる。 （３）心理学上の援助技術について理解し説明できる。 「思考力・判断力・表現力」 （１）科学的心理学の思考過程を身につける。 （２）身の回りのコトについて、心理学の専門用語をつかって考える。 （３）心理学上の理論や法則、数式などを他者に説明できる。 「主体性・多様性・協働性」 （１）心理学への関心・意欲を高める。 （２）心理学の知識を多方面に活用する力を持つ。 （３）多様な心理的支援を身近な対象者に対して実践できる。		
授業計画			
1	心理学とは何か（オリエンテーション）		
2	心のモデル：メカニックな心、ダイナミックな心、野獣の心、コンピュータの心		
3	心のはたらきの生理学的基礎		
4	心のはたらき１：学習～学ぶ・慣れる・習慣化する		
5	心のはたらき２：記憶～覚える、記憶する、想い出す、忘れる		
6	心のはたらき３：感覚～見る、聞く、感じる、痛む心		
7	心のはたらき４：知覚～分かる、動く、錯覚する、ものまねする		
8	心のはたらき５：感情～ポジティブな感情、笑うとは、怒るとは		
9	心のはたらき６：動機づけ～やる気の原理、インセンティブで動く心		
10	心のはたらき７：ストレス～不安とうつ、怒りと混乱への対処法		
11	心のはたらき８：社会心理～他者と生きる智恵		
12	心の個人差１：パーソナリティ～十人十色の性格・人格・品格		
13	心の個人差２：知性と感性～知能、社会的知能、創造性		
14	心の発達：細胞からヒト、人間、そして老い		
15	心の健康・不適応のアセスメント、インターベンション、プリベンション		
授業形態／具体的な内容	①講義／②講義、グループワーク、実習		
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額
医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー	山田冨美雄（監修・編著）	北大路書房	1900円＋税

参考書	心理学検定のための以下のテキストは用語の整理に役立ちます。 日本心理学会諸学会連合心理学検定局・編「心理学検定基本キーワード」、実務教育出版、2017年版 日本心理学会諸学会連合心理学検定局・編「心理学検定公式問題集」、実務教育出版、2017年版		
成績評価の基準・方法	基準 心理学の学問的特性を理解し、心理学分野全てにわたる知識（理論）と応用への道筋が理解できれば合格 方法 授業中にマナバで実施する小テストや課題の達成度で45点（３点×１５回）、最終試験（マークシート形式）で55点の合計点で評価します。		
留意点	心とは何か、心のはたらきにはどのようなものがあり、どのように科学するのかを常に考えておいてください。心理科学部での学びの原点は心理学概論だとおもって、楽しく授業に参加してください。		
準備学習	シラバスに記載のテーマに従って講義がおこなわれます。テキストの該当ページを熟読し、授業ノートに整理し、重要用語をまとめておくこと。また授業前にマナバから提供される資料は必ずダウンロードし、授業ノートとともに整理しておくこと。　（60分程度）		
備考	分からないことがあったら、授業が終わってから、聞きに来てください。 オフィスアワーも利用しましょう。	No.	PY621003・HS121001

科目	心理学史	単位数	2単位
担当教員	相谷　登		
履修対象	心理科学科4年秋学期		
概要と目的	現代の心理学について、その起源から変遷、更には現在の形となった経緯について、おおよそ説明できるようになる。		
達成目標	「知識・技能」 （１）心理学の起源について理解する。 （２）現代心理学の背景について理解する。 「思考力・判断力・表現力」 （１）現代心理学は、唐突に出来たのではないことを正しく理解する。 （２）各種の心理治療や心理療法の学問的背景を理解する。 「主体性・多様性・協働性」 （１）現代心理学の目指すものを正しく理解し、自らの行き方や職業志向に取り入れる。 （２）心理学の今後のあり方について考えてみる。		
授業計画			
1	心理学の起源について考えていく。		
2	哲学を基礎とした連合主義の誕生と心理学との関連性について知る。		
3	心理学の基礎をなした感覚・知覚研究の誕生を知る。		
4	精神物理学の誕生と心理学との関連性を知る。		
5	ヴントの登場と心理学の独立について理解する。		
6	ヴント登場後の心理学の世界の動向について知る。		
7	動物行動学の登場と比較心理学について理解する。		
8	個人に眼を向けた個人差研究について知る。		
9	フロイトの登場と精神分析学について理解する。		
10	ウエルトハイマーの登場とゲシュタルト心理学の誕生について理解する。		
11	ワトソンの登場と行動主義について知る。		
12	新行動主義から現代心理学への潮流について理解する。		
13	認知心理学について理解する。		
14	日本における心理学の歴史について知る。		
15	心理学の全体的な流れの理解とまとめ。		
授業形態／具体的な内容	講義／講義 　全般を通して、講義形式で実施します。		
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額
心理学史～現代心理学の生い立ち	大山正	サイエンス社	2,200円＋税金

参考書	「心理学のあゆみ」（著）大山正・岡本夏木・金城辰夫・高橋澪子・福島章　有斐閣新書		
成績評価の基準・方法	〔基準〕 　①心理学の歴史の流れを理解し、②それぞれの現代心理学の影響性が理解できれば合格 〔方法〕 　講義内に課す課題レポート（８０％）、講義内で行う課題（小テスト）（２０％）		
留意点	講義中の私語厳禁は言うまでもないが、大学の学びの集大成として能動的に考えて欲しい。		
準備学習	テキストは１４章からなっており、各自で各回の授業前に該当する章を熟読し、レジュメとしてまとめておく事（2時間程度）。 授業終了後は、心理学に関する学習の総決算として、あらゆる知識を統合しノート等にまとめる（約２時間）。		
備考	定期試験の結果について知りたい者に対しては、試験実施終了後約2週間後から素点のみを伝える。 【重要】新型コロナウィルス感染症の拡大によっては、授業計画や評価方法等を変更する可能性があります。	No.	PY621033

科目	心理学統計法 I	単位数	2単位
担当教員	宇惠　弘		
履修対象	心理科学科1年春学期		
概要と目的	心理学の研究で用いられる統計手法の基礎を学ぶ。		
達成目標	「知識・技能」 （1）心理学で用いられる統計手法について概説ができる。 （2）データの数量化の意味が説明、統計量の計算、推測統計の説明、統計的仮説検定の説明ができる。 「思考力・判断力・表現力」 （1）正しい計算ができているか、また、正しい統計知識の利用ができているか考えることができる。 （2）統計に関する基礎的な内容について理解し、データを用いて実証的に考えることができる。 「主体性・多様性・協働性」 （1）こころを数値で表現することに関心をもつ。 （2）マスメディアで目にする（耳にする）統計情報に関心をもつ。		
授業計画			
1	オリエンテーション		
2	心理学研究と統計（1）		
3	心理学研究と統計（2）		
4	分布の記述的指標とその性質（1）		
5	分布の記述的指標とその性質（2）		
6	相関関係の把握と回帰分析（1）		
7	相関関係の把握と回帰分析（2）		
8	確率モデルと標本分布（1）		
9	確率モデルと標本分布（2）		
10	検定と推定の考え方（1）		
11	検定と推定の考え方（2）		
12	検定と推定の考え方（3）		
13	平均値差と連関に関する推測（1）		
14	平均値差と連関に関する推測（2）		
15	平均値差と連関に関する推測（3）		
授業形態／具体的な内容	①講義／②講義、実習		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
心理統計学の基礎－統合的理解のために－	南風原朝和	有斐閣	2,200円+tax
参考書	よくわかる心理統計、山田剛史・村井潤一郎、2004年、ミネルヴァ書房 心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、1990年、北大路書房 初めて学ぶ統計学、菅民郎 ・桧山みぎわ 、2003年、現代数学社		
成績評価の基準・方法	基準 　①心理学で用いられる統計手法と統計に関する基礎的な知識を理解し、②宿題や期末試験による各概念の確認過程で一定の基準をクリアしていれば合格。 方法 　宿題、期末試験、学習意欲による総合評価。		
留意点	宿題（事前学習と事後学習）は毎時課すので必ず提出すること。特に、復習を必ず実施すること。		
準備学習	各回、前事後学習のための宿題を準備しているので、翌週までに解答し、授業の最初に提出できるようにしておくこと。（1.5時間程度）		
備考	各回の宿題については次週にフィードバックする。	No.	PY621004

科目	心理学統計法 II	単位数	2単位
担当教員	多田　美香里		
履修対象	心理科学科2年春学期		
概要と目的	心理統計法 I に続いて心理学の研究で用いる基本的な統計手法を学ぶ。		
達成目標	「知識・技能」 （1）心理学で用いられる統計手法について概説できるようになる。 （2）論文の統計的記述を抵抗なく読むようになる。 「思考力・判断力・表現力」 （1）基本的な心理統計の内容を理解し、データを用いて実証的に考えるようになる。 （2）ニュースやインターネット等で得られる情報に対して科学的・客観的判断をもって理解する。 「主体性・多様性・協働性」 （1）心理学的問題に対して適合した統計的手法を自ら選択できる。		
授業計画			
1	心理学で用いられる統計手法について概説するとともに、データを用いた実証的な考えについて議論する。		
2	t検定／独立な２群の平均値差に関するt検定（１）		
3	t検定／独立な２群の平均値差に関するt検定（２）		
4	t検定／対応のあるt検定		
5	復習／t検定を用いた研究事例		
6	カイ２乗検定（１）／適合度の検定		
7	カイ２乗検定（２）／独立性の検定		
8	復習／カイ２乗検定を用いた研究事例		
9	分散分析／１要因分散分析（１）		
10	分散分析／１要因分散分析（２）		
11	復習／１要因分散分析を用いた研究事例		
12	分散分析／２要因分散分析（１）		
13	分散分析／２要因分散分析（２）		
14	分散分析／２要因分散分析（３）		
15	復習／２要因分散分析を用いた研究事例、まとめ／その他の統計の紹介、心理統計の特徴の復習		
授業形態／具体的な内容	講義／講義、実習		
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額
心理統計学の基礎－統合的理解のために－	南風原朝和	有斐閣	2,200円+tax

参考書	南風原朝和・平井　洋子・杉澤　武俊（2009）心理統計学ワークブック -- 理解の確認と深化のために　有斐閣 南風原朝和（2014）続・心理統計学の基礎 -- 統合的理解を広げ深める　有斐閣 森敏昭・吉田寿夫（1990）心理学のためのデータ解析テクニカルブック　北大路書房 田中敏・山際勇一郎（1992）ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法　教育出版 山内光哉 （2009）心理・教育のための統計法　サイエンス社		
成績評価の基準・方法	成績評価の基準：心理学で用いる基本的な統計手法について理解し、概要を説明できること。 成績評価の方法：受講態度（積極性・コメントの妥当性）10点、課題（宿題、小テスト、小レポート、コメント）の達成度40点、学期末試験50点とする。		
留意点	毎回宿題がある。また、定期的に課題やコメントの提出を求める。授業中に電卓を用いた計算を行うことがある。		
準備学習	各回のテーマについて教科書の該当する部分を読み、わからない用語や項目について各自で調べてノートにまとめてくること（１時間程度）。 授業終了後マナバに掲載している課題を期限までに行い提出すること（１時間程度）。		
備考	毎回の宿題や課題については締め切り後にマナバ等で解答例や採点結果を示すため、各自の学習の参考にすること。	No.	PY621012

科目	心理学研究法Ⅰ（心）	単位数	2単位
担当教員	亀島　信也		
履修対象	心理科学科1年秋学期		
概要と目的	実験と観察の方法、質的・量的データとその収集方法など、心理学研究に必要な知識を修得する。		
達成目標	「知識・技能」 （１）心理学を研究する方法や手順などを正確に説明できる。 （２）実験や観察の方法、ならびに、質的研究や量的研究を正確に理解し比較ができる。 （３）卒業論文作成に必須な、研究デザインの仕方について基礎的技能を持つことができる。 「思考力・判断力・表現力」 （１）心理学文献などで取りあげられた研究方法について、生産的に批判できる。 （２）論理的な思考と魅力的な研究デザインによる効果的な表現能力を獲得することができる。 「主体性・多様性・協働性」 （１）心理学研究法の面白さから主体的に学習する意欲を高めることができる。		
授業計画			
1	講義予定と講義内容、成績評価、注意事項などを説明する。		
2	心理学における実証的研究法1　心理学における研究倫理や倫理指針について理解する。		
3	心理学における実証的研究法2　心理学研究法における基礎を概観する。		
4	心理学における実証的研究法3　心理学実験法と調査研究の違いを知る。		
5	心理学における実証的研究法4　心理学研究で用いられるさまざまな研究デザインを把握する。		
6	心理学における実証的研究法5　観察法と面接法の特徴をとらえる。		
7	心理学における実証的研究法6　臨床現場でみられる事例研究を理解する。		
8	心理学における実証的研究法7　量的研究と質的研究の活用について検討する。		
9	心理学で用いられる統計手法　平均値の比較のための検定や分散分析を学習する。		
10	統計に関する基礎知識1　ステーブンスの４つの尺度水準についての理解を深める。		
11	統計に関する基礎知識2　代表値、分布図、標準偏差と分布の基礎を学習する。		
12	統計に関する基礎知識3　量的や質的、独立や従属という変数の種類の理解や相関係数を学習する。		
13	統計に関する基礎知識4　パラメトリックとノンパラメトリック検定を区別する。		
14	統計に関する基礎知識5　帰無仮説を理解し統計的仮説検定法を習得する。		
15	今学期の心理学研究法のまとめをし、卒業論文でも使える研究レポートの書き方を習得する。		
授業形態／具体的な内容	①講義／②講義		
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額
心理学研究法入門　心理学エレメンタルズ	アン・サール著　宮本聡介訳　渡辺真由美訳	新曜社	２２００円

参考書			
成績評価の基準・方法	基準 ①心理学を研究する方法や②手順を理解できれば合格とする。 方法 単位認定に関しては、定期試験とクラス参加度で判断する。 定期試験については、担当教員による講義の理解を問う（80％）。 事前に講義ノートを入手することや、質問などによるクラス参加度を授業に対する貢献度として評価する（20％）。		
留意点	受講にあたっては、大学生としての本分をわきまえ本科目の学習に集中すること。		
準備学習	開講初日に詳細なシラバスを配布するので、それに基づき週に3時間程度の準備学習を期待する。 各回の講義前に講義ノートを入手し、シラバス掲載の教科書の部分に目をとおしておくこと(１時間程度)。 各回の講義後に講義ノートを参考にして復習し、課題をマナバで提出すること(2時間程度)。		
備考	提出された課題に対するフィードバックはマナバで行なう。	No.	PY621005

科目	心理学研究法 II	単位数	2単位
担当教員	亀島　信也		
履修対象	心理科学科2年春学期		
概要と目的	さまざまな心理学実験、観察法、調査法と、その多様なデータ収集方法などの知識を修得する。		
達成目標	「知識・技能」 （1）心理学を研究するさまざまな方法を正確に説明できる。 （2）心理学論文執筆に必須な研究デザインを作成する基礎的技能を持つ。 「思考力・判断力・表現力」 （1）実験研究や観察研究などの基礎的手法が望ましいかを判断できる。 （2）実践研究や精神生理学研究などの応用手法が望ましいかを判断できる。 「主体性・多様性・協働性」 （1）さまざまな心理学研究法の面白さから主体的に学習する意欲を高めることができる。		
授業計画			
1	講義予定と講義内容、成績評価、注意事項などを説明する。		
2	心理学研究法を概観し、心理学研究法を分類する。		
3	実験法１　実験における統制を学習する。		
4	実験法２　実験の妥当性や仮説・構成概念を説明する。		
5	調査法１　心理調査と社会調査を区別する。		
6	調査法２　心理尺度の信頼性や妥当性を検討する。		
7	観察法１　観察研究の立場を理解する。		
8	観察法２　観察データの信頼性や妥当性を検討する。		
9	面接法１　面接法の研究計画を学習する。		
10	面接法２　面接データの質的分析を検討する。		
11	実践研究　代表的な実践研究について学習する。		
12	精神生理学的研究１　脳や神経系の概略と生理指標の種類を学習する。		
13	精神生理学的研究２　いろいろな研究の実際を概観する。		
14	心理学論文執筆法を再考する。		
15	心理学研究法 II のまとめとして今学期学習した内容を復習する。		
授業形態／具体的な内容	講義／講義		
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額
Progress & Application心理学研究法	村井潤一郎	サイエンス社	２２００円

参考書			
成績評価の基準・方法	基準 ①さまざまな心理学を研究する方法や②手順が説明できれば合格とする。 方法 単位認定に関しては、定期試験で判断する。 定期試験については、担当教員による講義の理解を問う（80%）。 事前に講義ノートを入手することや、質問などによるクラス参加度を授業に対する貢献度として評価する（20%）。		
留意点	受講にあたっては、大学生としての本分をわきまえ本科目の学習に集中すること。		
準備学習	開講初日に詳細なシラバスを配布するので、それに基づき週に3時間程度の準備学習を期待する。 各回の講義前に講義ノートを入手し、シラバス掲載の教科書の部分に目をとおしておくこと(１時間程度)。 各回の講義後に講義ノートを参考にして復習し、課題をマナバで提出すること(2時間程度)。		
備考	提出された課題に対するフィードバックはマナバで行なう。	No.	PY621017

科目	心理的アセスメントⅠ（心A）	単位数	1単位
担当教員	荒木　敏宏、津田　恭充		
履修対象	心理科学科3年春学期		
概要と目的	質問紙法、作業検査法、神経心理学的検査など、臨床や研究の場面で用いられる技法を体験しながら修得する。		
達成目標	「知識・技能」 （１）さまざまなアセスメントの目的、内容、実施法、解釈法を総合的に理解する。 （２）さまざまなアセスメントの具体的な実施手順と解釈法を修得する。 「思考力・判断力・表現力」 （１）さまざまなアセスメントを体験することを通じて、検査者の役割や姿勢について考える。 （２）アセスメントの個別の結果について解釈し、所見を書くことができる。 「主体性・多様性・協働性」 （１）アセスメントに積極的に取り組む姿勢を示す。 （２）アセスメント実施に伴う倫理的責任について注意を払う。		
授業計画			
1	オリエンテーション、臨床場面における心理アセスメントの考え方（津田・荒木）		
2	性格検査：ビッグファイブ理論の概要およびNEO-FFIの実施と解釈（津田）		
3	性格検査：エゴグラム（新版TEG3）の実施と解釈（津田）		
4	性格検査：潜在連合テストの実施と解釈（津田）		
5	精神的健康の調査：CMI、STAI、BDI-Ⅱの実施と解釈（津田）		
6	作業検査法：内田・クレペリン検査の実施（津田）		
7	作業検査法：内田・クレペリン検査の解釈（津田）		
8	医療現場における心理アセスメントの実際（津田）		
9	性格検査：YG性格検査（矢田部ギルフォード性格検査）の概要　（荒木）		
10	性格検査：YG性格検査（矢田部ギルフォード性格検査）の実施と解釈　（荒木）		
11	神経心理学的検査①認知症スクリーニングテストの概要と実施　（荒木）		
12	神経心理学的検査②脳損傷・遂行機能障害スクリーニングテストの概要と実施　（荒木）		
13	性格検査：P-Fスタディ（絵画欲求不満テスト）の概要　（荒木）		
14	描画を用いた性格検査・発達検査の概要　（荒木）		
15	児童相談所における心理アセスメントの実際　（荒木）		
授業形態／具体的な内容	演習／演習、講義		
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額

参考書			
成績評価の基準・方法	基準：授業で習った心理アセスメントの理論と方法を理解できていれば合格とする。 方法：レポート提出（遠隔課題含む）や授業内での課題の総合点によって評価する。		
留意点			
準備学習	授業で扱う心理アセスメント及びそれに関する他の心理アセスメント等に関する概要を調べてノートにまとめておくこと（1.5時間程度）。		
備考	遠隔課題に対するフィードバックは、次週授業内で行う。 また、授業においては児童相談所や障害者施設での実務経験に基づく事項等を紹介して、実践的な知識・情報の提供も行う。（荒木）	No.	PY622002・HS721014

科目	心理的アセスメントⅡA	単位数	1単位
担当教員	櫻井　秀雄、粟村　昭子		
履修対象	心理科学科3年秋学期		
概要と目的	概要：臨床場面でも特に重視される個別式知能検査や投映法について、体験学習と講義の二本立てで学ぶ。 目的：代表的な知能・発達検査の実施方法とその解釈法を学ぶと共に、投映法の基礎理論を学び質問紙法との違いを理解できるようになる。		
達成目標	「知識・技能」 （1）個別式知能検査を部分的に施行することができる。 （2）知能集団式検査と個別式検査の違いを正しく理解する。 （3）集団式検査と個別式検査の違いを正しく理解する。 （4）ロールシャッハ・テストのサイン化の意味を理解できるようになる。 （5）投映法と質問紙法の違いを正しく理解する。 「思考力・判断力・表現力」 （1）代表的な知能検査の用い方がわかるようになる。 （2）投映法の基礎理論についてわかるようになる。 （3）知能検査、投映法の限界や倫理についてわかるようになる。 「主体性・多様性・協調性」 （1）個別式検査を積極的に体験する。 （2）自分自身で心理検査の解釈を試みる。		
授業計画			
1	投映法の基礎知識（1）／イントロダクション（1～7回　担当：粟村）		
2	投映法の基礎知識（2）／ロールシャッハ・テストの基礎知識の獲得		
3	投映法の基礎知識（3）／ロールシャッハ・テストのサイン化と解釈理論の獲得		
4	投映法の基礎知識（4）／描画テストの体験と基礎理論の獲得		
5	投映法の基礎知識（5）／描画テストの種類と解釈理論の獲得		
6	投映法の基礎知識（6）／SCTの基礎理論の獲得		
7	投映法の基礎知識（7）／SCTの解釈の獲得		
8	知的・発達的アセスメント実習（1）／知能検査の基礎知識の獲得（8～14回　担当：櫻井）		
9	知的・発達的アセスメント実習（2）／知能検査の施行法の獲得（WISC）		
10	知的・発達的アセスメント実習（3）／知能検査の施行法の獲得（WISC）		
11	知的・発達的アセスメント実習（4）／知能検査の施行法の獲得（K-ABC）		
12	知的・発達的アセスメント実習（5）／発達検査の施行法の獲得（新版K式発達検査2001）		
13	知的・発達的アセスメント実習（6）／発達検査の施行法の獲得（新版K式発達検査2001）		
14	知的・発達的アセスメント実習（7）／知能指数の基礎理論と算出方法の獲得・知能検査のまとめ		
15	倫理とまとめ（平常試験）／倫理についての知識の獲得 と平常試験(担当：粟村・櫻井）		
授業形態／具体的な内容	講義／講義、演習、ディスカッション		
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額
指定教科書なし			

参考書	心理アセスメントハンドブック　上里一郎　西村書店		
成績評価の基準・方法	基準 　当該達成目標である「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」・「主体性・多様性・協調性」が達成できれば合格。 方法 　授業態度、試験により、平常試験（80%）、授業での発言および個別式検査実習時の主体性など授業への貢献度（20%）として、それぞれ各担当者の評価を合計して総合評価とします（なお、本年度の平常試験はレポート試験と致します）。		
留意点	臨床心理アセスメントⅠと同様、授業で使用する心理テスト用紙を購入・持参して本講義に臨むこと。私語、大幅な遅刻は認めない。		
準備学習	事前に授業で扱うアセスメントについて参考図書などで準備学習をすること（1時間程度）。また、授業後は授業で取り扱ったアセスメントについてノートなどにまとめて理解しておくこと（1時間程度）。		
備考	担当教員（櫻井）は、大阪府池田保健所箕面支所、大阪府門真市福祉事務所、子供心身医療研究所、奈良県中央・高田児童相談所および奈良県心身障害者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰにて、臨床心理士および心理判定員として臨床心理業務の従事した経験があり、その実務経験を活かして、臨床場面でも特に重視される個別式知能検査(WISCⅢ・Ⅳ、K-ABCおよび新版K式発達検査2001)の検査法及び解釈法について学ぶ授業を行う。 担当教員（粟村）は精神科病院、総合病院の神経精神科、福祉施設で臨床心理士として心理判定、個人・集団の心理療法を行ってきた。現在も総合病院で心理臨床業務に携わっている。その臨床経験を授業でも提供している。	No.	PY622004

科目	心理学実験Ⅰ（心A）	単位数	1単位
担当教員	多田　美香里、宇惠　弘、佐伯　恵里奈、林　美恵子		
履修対象	心理科学科2年春学期		
概要と目的	心理学の基礎的な実験を実施し、科学における実験の意義と方法の理解を深める。		
達成目標	「知識・技能」 （１）実験の目的に合わせて実験計画を立てることができる。 （２）実験データの収集および処理を適切に行うことができる。 （３）実験の結果について適切な解釈ができ、報告書を作成することができる。 「思考力・判断力・表現力」 （１）実験を通して実証的な考え方をするようになる。 （２）研究報告書の作成を通じて、科学的・客観的な表現ができる。 「主体性・多様性・協働性」 （１）実験結果を様々な視点から考察することができる。		
授業計画			
1	ガイダンスと復習課題：受講の注意点の確認、実験およびレポート作成に関する課題を行います。		
2	系列位置効果：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
3	系列位置効果：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
4	視覚探索：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
5	視覚探索：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
6	行動観察：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
7	行動観察：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
8	ミュラー・リヤー錯視：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
9	ミュラー・リヤー錯視：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
10	SD法：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
11	SD法：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
12	触2点閾：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
13	触2点閾：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
14	データ解析演習：実習の意義と目的を解説し、SPSSを用いたデータ解析方法を説明します。		
15	データ解析演習：SPSSによるデータ分析結果の出力とその解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
授業形態／具体的な内容	実験／グループワーク、実験、実習		
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は指定せず、教員が用意したレジュメに基づいて授業をすすめます。			

参考書	心理学実験指導研究会（１９８５）実験とテスト＝心理学の基礎　培風館 日本心理学会認定心理士資格認定委員会（２０１５）認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房		
成績評価の基準・方法	成績評価の基準：実験報告書（レポート）が作成でき、心理学の実験について理解すること。 成績評価の方法：各レポートは、別途配布する評価表の基準によって100点満点で評価します。４つのレポートの平均点を80%、受講態度（実験への貢献度、積極性等）を20%とします。		
留意点	授業中は、実験の実施に適した環境づくりを各自心がけてください。 レポート（実験の報告書）はすべてのテーマで提出し、期限までに提出されない場合は成績評価対象になりません。		
準備学習	この実習で扱うテーマに関する用語を各自調べてノートにまとめてくること（１時間程度）。 実験終了後この実習で扱ったテーマに関する文献を調べてノートにまとめておくこと（１時間程度）。		
備考	テーマ担当教員が採点・添削して返却したレポートは各自で保管し、次のレポート作成に役立ててください。なお、合格点に達しないレポートには再提出を課します。期限までに再提出されない場合、そのテーマのレポートは０点になります。	No.	PY622001

科目	心理学実験Ⅱ（心A）	単位数	1単位
担当教員	多田　美香里、佐伯　恵里奈、林　美恵子、山田　冨美雄		
履修対象	心理科学科2年秋学期		
概要と目的	心理学基礎実験実習Ⅰで学んだことを活かし、さらに高度なデータ処理方法を学び、考察を深める。		
達成目標	「知識・技能」 （1）実験の目的に合わせて実験計画を立てることができる。 （2）実験データの収集および処理を適切に行うことができる。 （3）実験の結果について適切な解釈ができ、報告書を作成することができる。 「思考力・判断力・表現力」 （1）実験を通して仮説検証について学び、実証的な考え方をするようになる。 （2）研究報告書の作成を通じて、科学的・客観的な表現ができる。 「主体性・多様性・協働性」 （1）実験結果を様々な視点から考察することができる。 （2）心理学の研究例について改善点やより良い検証方法の提案ができる。		
授業計画			
1	ガイダンスと復習課題：受講の注意点の確認、実験およびレポート作成に関する課題を行います。		
2	ストループ課題：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
3	ストループ課題：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
4	社会的促進：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
5	社会的促進：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
6	重量弁別：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
7	重量弁別：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
8	実行機能検査：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
9	実行機能検査：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
10	知覚運動学習：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
11	知覚運動学習：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
12	連想プライミング：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
13	連想プライミング：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
14	生理データの測定：実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案し、実験を行います。		
15	生理データの測定：データの収集・処理、分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
授業形態／具体的な内容	実験／グループワーク、実験、実習		
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は使用せず、教員が用意した教材に基づいて授業をすすめます。			

参考書	心理学実験指導研究会（１９８５）実験とテスト＝心理学の基礎　培風館 日本心理学会認定心理士資格認定委員会（２０１５）認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房		
成績評価の基準・方法	成績評価の基準：実験報告書（レポート）が作成でき、心理学の実験について理解すること。 成績評価の方法：各レポートは、別途配布する評価表の基準によって100点満点で評価します。４つのレポートの平均点を80%、受講態度（実験への貢献度、積極性等）を20%とします。		
留意点	授業中は、実験の実施に適した環境づくりを各自心がけてください。 レポート（実験の報告書）はすべてのテーマで提出し、期限までに提出されない場合は成績評価対象になりません。		
準備学習	この実習で扱うテーマに関する用語を各自調べてノートにまとめてくること（１時間程度）。 実験終了後この実習で扱ったテーマに関する文献を調べてノートにまとめておくこと（１時間程度）。		
備考	テーマ担当教員が採点・添削して返却したレポートは各自で保管し、次のレポート作成に役立ててください。なお、合格点に達しないレポートには再提出を課します。期限までに再提出されない場合、そのテーマのレポートは０点になります。	No.	PY622002

科目	調査方法論	単位数	2単位
担当教員	宇惠　弘		
履修対象	心理科学科3年秋学期		
概要と目的	尺度構成の過程を体得し、更に人格検査やSD法を実施し、データの解析の実習を行う中で調査の実際に触れることを目的とする。		
達成目標	「知識・技能」 （1）得られたデータを集約し分析する方法について理解し、実践できる。 （2）データ分析の方法を理解し、実践できる。 「思考力・判断力・表現力」 （1）得られたデータを集約することができる。 （2）統計解析した結果を解釈することができる。 「主体性・多様性・協働性」 （1）実験と調査から仲間と協力しデータを収集する。 （2）仲間と相談しデータ分析をする。		
授業計画			
1	オリエンテーション		
2	質問紙法の基礎１／尺度作成の概要説明、尺度項目の案出		
3	質問紙法の基礎２／データの収集と入力		
4	質問紙法の基礎３／項目分析１（尺度得点の算出（記述統計）とGP分析（t 検定））		
5	質問紙法の基礎４／項目分析２（IT相関（相関係数））		
6	質問紙法の基礎５／レポート作成		
7	質問紙法（人格検査）１／質問紙調査の概要説明、調査用紙の作成		
8	質問紙法（人格検査）２／データの収集と入力		
9	質問紙法（人格検査）３／データの集約と解析（記述統計、相関係数、 t 検定）		
10	質問紙法（人格検査）４／データの解析（回帰分析、因子分析）		
11	質問紙法（人格検査）５／レポートの作成		
12	SD法１／SD法の概要説明、調査用紙の作成		
13	SD法２／データの収集と入力		
14	SD法３／データの解析（記述統計、分散分析）		
15	SD法４／レポート作成		
授業形態／具体的な内容	実習もしくは実技／実験、実習、実技		
教科書			

教科書名	著者名	出版社	金額
指定教科書なし			

参考書			
成績評価の基準・方法	基準 　調査の方法論とデータの整理・分析を理解し、レポートとしてまとめることができれば合格。 方法 　授業での学習意欲　40%、課題提出状況とレポート内容　60%		
留意点	課題の提出を頻繁に求めます。		
準備学習	各回、事前事後学習のための宿題を準備しているので、翌週までに解答し、授業の最初に提出できるようにしておくこと。（2時間程度）		
備考	各回の課題については次週フィードバックする。 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法等を変更する可能性があります。	No.	PY523001

科目	心理演習Ⅰ（心 A）	単位数	1
担当教員	谷向　みつえ、久保　信代、島井　哲志、津田　恭充、松本　敦、荒木　敏宏		
履修対象	心理科学科 2 年秋学期		
概要と目的	公認心理師に求められるコミュニケーションスキルの知識や技法をロール・プレイや事例検討を通して修得する。		
達成目標	「知識・技能」 （1）公認心理師に求められる心理学的な技法や知識について理解し、体験を通して習得している。 （2）良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 「思考力・判断力・表現力」 （1）心の問題に対して、心理学の知見や理論に基づき、援助の方向性を考える力をつける。 （2）公認心理師の倫理に基づいた思考や判断ができる。 「主体性・多様性・協働性」 （1）心の問題に対する援助について多様性、協働性の観点から理解できる。 （2）主体的にロールプレイや事例検討に取り組むことができる。		
授業計画			
1	オリエンテーション		
2	気分障害の事例		
3	統合失調症の事例		
4	強迫性障害の事例		
5	対こどものコミュニケーション：要支援者の迎え方・送り方、自己紹介、相談契約、枠組みの説明など		
6	対大人のコミュニケーション：要支援者の迎え方・送り方、自己紹介、相談契約、枠組みの説明など		
7	領域別のコミュニケーション演習		
8	コミュニケーション・スキル／基本的傾聴の連鎖		
9	インテーク面接のロールプレイ／情報を収集する		
10	インテーク面接のロールプレイ／見立てる		
11	心理支援に関する法律と倫理（1）		
12	心理支援に関する法律と倫理（2）		
13	支援支援に関する法律と倫理（3）		
14	各領域での公認心理師の役割（1）		
15	各領域での公認心理師の役割（2）		
授業形態／具体的な内容	演習／講義、実習、グループワーク、ディスカッション		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
公認心理師エッセンシャルズ	子安増生・丹野義彦（編）	有斐閣	
参考書	下山晴彦・中嶋義文・鈴木伸一・花村温子・滝沢龍(編)（2016）. 公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法　医学書院 島井哲志・山崎久美子・津田彰（著）（2016）. 保健医療・福祉領域で働く心理職のための法律と倫理　ナカニシヤ出版 授業内において随時、紹介する。		
成績評価の基準・方法	基準 　公認心理師が担う心理面接において、基本的な知識や技法、特に傾聴について理解するとともに、それらを実践しようとする態度や意欲を身につけることができれば合格。 方法 　学習意欲、受講態度、提出物などにより総合的に評価する。		
留意点	実習中心であるため、無断欠席、遅刻は厳禁。また、受講生には、、ロールプレイやグループでの話し合いなど、積極的な参加が求められる。		
準備学習	授業に向けて予備知識の理解に努めましょう。日常生活の中で感じること、考えることに意識を向けてみましょう。また、普段から新聞やテレビで報道されている社会的問題に意識を向けて、どのような援助・介入が可能かを考えるようにしましょう。		
備考	課題等へのフィードバックは授業中に適宜行う。	No.	PY622003

科目	心理演習Ⅱ A	単位数	1単位
担当教員	荒木　敏宏、櫻井　秀雄		
履修対象	心理科学科3年春学期		
概要と目的	概要：さまざまな臨床心理学的支援技法を実践的に学ぶ。 目的：可能な限り、多様な事例を取り入れることで、さまざまな臨床的問題のアセスメントとその支援技法を体験的に習得する。		
達成目標	「知識・技能」 （1）いくつかの代表的なカウンセリングや心理療法の理論を理解できる。 （2）様々な発達障害や不登校児への発達臨床心理学的支援技法を理解できる。 （3）その技法を事例を通じて活用できる。 「思考力・判断力・表現力」 （1）対人援助の実践方法について自ら考え判断できる。 （2）発達や知的能力のアセスメント結果から適切な指導・助言を判断できる。 （3）その発達特性に応じた環境調整等の決定をするプロセスを考えられる。 （4）発達障害や不登校児への臨床心理学的支援技法ついて、総合的に思考・判断できる。 （5）児童虐待が発生する心理的・社会的・家族的背景等について、総合的に思考・判断できる。 「主体性・多様性・協働性」 （1）対人援助に関心を持ち自ら課題に取り組める。 （2）グループでの実習などで仲間と協力できる。		

授業計画	
1	はじめに/授業のオリエンテーション
2	発達障害（自閉スペクトラム症）および不登校における臨床現場①スクールカウンセリング（櫻井）
3	発達障害（自閉スペクトラム症）および不登校における臨床現場②児童相談所（櫻井）
4	発達障害（自閉スペクトラム症）の二次障害としての不登校における発達精神病理（櫻井）
5	ディスカッション・グループワークを通した事例検討（発達障害/不登校事例）①アセスメント（櫻井）
6	発達障害（自閉スペクトラム症）の二次障害としての不登校に対する応用行動分析的支援（櫻井）
7	発達障害（自閉スペクトラム症）の二次障害としての不登校に対する精神力動的支援（櫻井）
8	ディスカッション・グループワークを通した事例検討（発達障害/不登校事例）②支援技法（櫻井）
9	児童虐待の現状を知る　（荒木）
10	児童虐待が起こる背景やリスク　（荒木）
11	虐待を受けた子どもたちの心理や行動　（荒木）
12	虐待を受けた子どもの愛着障害　（荒木）
13	虐待を受けた子どものPTSD　（荒木）
14	虐待を受けた子どもへの心理的支援　（荒木）
15	児童虐待への対応：児童相談所の役割と現状　（荒木）
授業形態／具体的な内容	実習・演習／ディスカッション、グループワーク

教科書

教科書名	著者名	出版社	金額
プリント配布等。			

参考書	適宜配布するプリントに加え、下記の文献を参考図書とする。 『ソーシャルワークのための「教育学」』／櫻井秀雄編著／あいり出版／2,200円＋税
成績評価の基準・方法	基準：授業内のレポート提出、事例を通じたディスカッション・グループワークへの参加がすべてなされていれば合格とし、内容に応じてさらに加点する。 方法：荒木は授業内のレポート提出（遠隔課題含む）、櫻井は事例を通じたディスカッション・グループワークに関するレポート提出から評価する。
留意点	ディスカッション・グループワークを通した事例検討（発達障害/不登校事例）を行う関係上、履修者には個人情報の守秘義務を求める。
準備学習	予習および復習すべきことを説明するので、それらを各自でノートにまとめて次回の授業に臨むこと。（1.5時間程度）

備考	担当教員（櫻井）は、子供心身医療研究所、奈良県中央・高田児童相談所および奈良県心身障害者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰにて、臨床心理士および心理判定員として臨床心理業務の従事した経験があり、その実務経験を活かして、発達障害や不登校事例を踏まえ、その臨床心理学的支援技法を実践的に習得させる授業を行う。 担当教員（荒木）は、児童心理司の実務経験に基づく事項等を紹介して、実践的な知識・情報の提供を行う。 授業内の課題に対して、その授業内か次回の授業にフィードバックする。 講義テーマ等については、変更や入れ替えの可能性がある。	No.	PY622005